

関川以東の高田平野では延宝四（1676）年に中江用水が完成しています。その一部（支線？）の可能性がありますが。また用水2も掘立柱建物より古く、江戸時代の用水と考えられます。

## 5 遺物

**古代** 土師器甕、須恵器杯が少量出土しています。時期は8世紀末葉～9世紀初頭と考えられます。

**中世** 集落の周辺と思われることから遺物は多くありません、土器の大半は珠洲焼です。このほか非常に少ないですが、当時輸入された青磁や磨石・砥石などの石製品が出土しています。時期は13世紀後半～15世紀前半と思われます。

**近世** 中世末期～江戸時代の越中瀬戸焼、佐賀県産から唐津焼・伊万里焼などが見つかっています。

## 6 まとめ

今回の調査では中世の道路、用水、井戸などが見つかり、遺構・遺物から中世集落の周辺部に当たることが分かりました。時期は出土した珠洲焼から13世紀後半～15世紀前半と推定されます。また調査の過程で江戸時代以降の用水や掘立柱建物も見つかりました。

下割遺跡では平成14・15年の発掘調査で、13世紀後半～14世紀の集落が見つかりました。今回の調査区から西100mに位置します。集落は溝に区画された屋敷地が数個集まったもので、屋敷内には主軸方位の同じ建物や井戸などが配置されます。また、屋敷地の周辺には道路がめぐります。さらに西には平成21年度の発掘調査で14世紀～17世紀前半頃と推定される水田が見つかりました。水田は条里制の名残のある方形の区画を持ったもので、整然と並んでいました。平成22・23年度の発掘調査では、この時期としては極めて大規模な道路が見つかりました。道路は飯田川に向かうものと考えられます。

これまで中世の米岡村は、慶長二年（1597）に作成された『越後国頸城郡絵図』で知ることができます。絵図には米岡村をはじめとする周辺の村々が描かれています。米岡村は

米岡村 上 （米岡村は、上の等級の村である）

御料所 窪田扱 此外拾三方分 （上杉氏の直轄地で窪田源右衛門が管理するほか、13人の禄を給する）

本納 式百八拾三石二斗八升七合 （以前の年貢の基準となる石高は283石2斗8升7合である）

縄ノ高 五百三拾四石五斗三升五合（1595年？の）検地以後の石高は534石5斗3升5合である）

家拾九間 百拾老人 （家は19軒で、111人である）

と書かれ、周辺に水田が広がる風景が描かれています。

発掘調査で分かったことは、頸城郡絵図より150～200年ほど古い時代の13世紀後半～15世紀前半です。しかし、発掘調査から中世の村の姿が少しずつ具体的に明らかになりつつあります。



用水（中江用水の支線か？）（南から）



左上：青磁椀、右上：珠洲焼甕、  
左下：珠洲焼すり鉢、右下：珠洲焼壺